



ヨゼフ アバイヤ司教認可
発行所 福岡司教区本部
福岡市中央区浄水通6-28
発行人
カトリック福岡司教区
編集人 浦川 務
TEL 092-522-4059
FAX 092-523-2152
振替口座 01760-6-20729
カトリック福岡司教区
定価 1部70円

11月の意向

【教皇の意向】自殺防止
【日本の教会】日本と韓国の教会

「聖年と青年」～世界青年の日に寄せて～

教区青少年委員会・委員長 桑原篤史神父
(聖アウグスチノ修道会・笹丘教会助任)



ローマ巡礼「聖年・青年の祝祭」に参加した福岡教区の青年たち

が落ち着いて、この1、2年で青年活動が活発になってきた地区が出てきました。一方で、なかなか青年たちが戻ってこない地区もあるようです。そんな中、2024年4月28日には、大名町カテドラルセンターに青年たちが自由に集える場所として福岡教区青年センター「カタラント」が開設され、さらに同年11月4日には、「福岡青年大会」を開催し、教区の青年たち400人以上が集まりました。コロナ禍明けでは、一番大きなイベントとなり、新たな教区の青年たちのスタートの年となりました。今年2025年11月1～3日には、福岡教区の青年17人が仁川教区を訪れ、ホームステイなどで韓国の青年たちと時間を共にします。それぞれの地区では青年活動をする青年は少なくても、

青年との歩み

司祭叙階のお恵みを受けて、3年目を迎えました。多くの方々に支えていただいたことに感謝しています。福岡教区では、主に青少年司牧に携わっています。

新型コロナウイルス感染症

2025年11月23日(王であるキリストの祭日) 第40回「世界青年の日」

1984年、あがないの特別聖年に、教皇ヨハネ・パウロ二世は十十字架(380cm)を聖ペトロ大聖堂の祭壇脇に設置し、それを「主イエスの人類への愛のしるし」として青年らに託しました。以来、この十字架は巡礼のシンボルとして諸国を旅しています。翌1985年、国連が定めた「国際青年年」の受難の主日に、青年らはこの十字架とともに教皇のもとに集まりました。そして教皇は毎年受難の主日を「世界青年の日」として祝うよう定め、メッセージを発表されます。以後、2～3年に一度WYD(ワールドユースデー世界青年の日大会)が開かれており、次のWYDは2027年韓国・ソウルで開催されます。2020年に前教皇フランシスコは、各方面の要望を踏まえ協議を重ねた結果、2021年より世界青年の日を「王であるキリストの祭日」に変更されましたが、祝われる日が変わっても、この日の中心にあるのはつねに、人類のあがない主イエス・キリストの神秘です。

2025年「聖書週間」(11月16日～23日)

聖書週間は、聖書に親しみ、聖書をより正しく理解するために、特に関心を持って取り組みを行うようにと始まった週間です。

今年のテーマは、「あなたがたに平和があるように」(ヨハネ20・19)と決まりました。※リーフレット『聖書に親しむ』を右記QRコードからご覧いただけます。



未来へ「青年の祝祭」

7月27日から8月5日まで、日本の青年たちと聖なる

教皇の意向のために祈りましょう

【教皇の意向】自殺防止

【日本の教会】日本と韓国の教会

年、ジュビリー(聖年Jubilee)を祝うために、ローマへ巡礼に行つてきました。福岡教区からは7人が参加しました。

巡礼に参加した人は、本当に多くのお恵みを頂いたと思います。人生が変わる体験だったでしょう。巡礼には、犠牲が付きものです。今回の巡礼に、「一緒に行動しよう」と多くの青年に声をかけました。ある青年には、最初、仕事の都合がつかないと断られました。しかし、後で参加すると決めたのです。「仕事は大丈夫?」と聞くと、「仕事はやめます」と返事。私たちは、彼の人生や仕事のことまでは保証はできません。しかし、この巡礼の体験から得ることができるものは保証できます。彼は、大きな代償と引き換えに、恵みに満ちた体験をしてきました。

すべての人の状況を知つて

第2回 教区全司祭集会



講師の広田氏

「統計の結果として明らかに」

9月30日、大名町教会講堂にて「未来に開かれた教会」教育の視点から青年とのかかわり方を考える」をテーマに、広田悠大氏(NPO法人リトリト前共同代表)を講師に迎え、様々な統計調査をもとに子どもや若者世代の意識と関

時の話題

日本と韓国の教会

私はチラッと見たら仏(イム)にも見える韓国人神父です。韓国から来日して約9年になります。11月の日本の教会の祈りの意向

「日本と韓国の教会」に合わせ、日本での司牧のこの違いや、韓国との違いや、気付き、これから

の希望などを皆さんと分かち合いたいと思います。まず、日本と韓国の教会は親しい関係にあるということですね。定期的な日韓

の司教交流会や、増えつつある韓国からの司祭の派遣などがその根拠になると思います。最近では青年たちの交流会もありますね。

人の性格が違うのは当然であるように、言語や文化など国と国との違いも当然です。現在、交通機関の発展による交流や、ネット上の情報交換により境界がなくなり、違いの差や理解の問題などは以前よりよくなりました。でも、言語の違いは常にあります。そして、日本で司牧するには日本語を習得し理解することが必要なのに、様々な違いを勉強しなければならぬです。例えば韓国では、司祭が小教区を中心とするリ



午後は、ローマ巡礼に参加した青年たちからの報告

以上により、日本の若者は幸福感が低く、幸福度は居場所の数に比例すること、宗教離れの世代といっても宗教そのものの信仰の礎となり、これから日本の教会の未来と成っていくことを、私は確信しています。

①若者の居場所となるために教会に求められることは、主に次の通り。

②若者の関心、趣味などを共有し、分かち合うための出会いの場となる。

③そこで出会った若者が様々なコミュニケーションや出来事を通して「自認」(他者とは異なる自分を見出す)、「承認」(それが自分とは異なる他者を認め受け入れる)の場となる。

④個性を認め尊重する事によって、その人にふさわしい「係」・「役割」を見出し、担うことによって喜びや達成感を感じる場となる。

さらに、若者にとって「育てられるだけでなく、育てる側」にもなれる環境を教会が



2021年の九州国立博物館特別展の中で奈良の中宮寺観音像(国宝)が展示されて

いました。こじんまりとした展示室の中央に座し、手を伸ばすような観音像を目にしたとき、その慈悲深い姿に思わず手を合わせて拝むようなしぐさをしました。周りで見賞する人の中に手を合わせる人は一人もいません。最近になって中宮寺を訪れ、本尊として座す観音像に再会し、はばかることなく手を合わせました。古代から今に至る日本の伝統文化や仏教への敬意と、仏像を拜んできた人々の祈りに繋がったのです。▼手を合わせるというと、神社やお寺に参りするときだけでなく日常生活の中でも、いただきます、ありがとう、ごめんなさいなど感謝や謝罪のしぐさとして目にします。ミサで祈るときに手のひらを合わせるか指を組むのは、文化の違いを超えて普通に見られるしぐさでしょう。▼あるとき、ミサに共に与るベトナムの若者たちが腕を組むことに気がつきました。聞くと、ベトナムでの伝統的な敬愛のしぐさでミサでも行うそうです。そういえば、両の手をひらを上高く向けて天を仰ぐような賛美や祈りもあります。他の宗教に目を向けると、イスラム教では土下座をするようなしぐさがあり、チベット仏教では額と両肘を地面につける五体投地が見られます。▼日本だけでなく世界のあちこちに、祈りのみなぎりが感じられます。自然なしぐさで、神に祈る姿や他者の気持ちに合わせようとする姿を目にすると、心が平和な気持ちで満たされます。(C)

◆ 福岡教区創立 100 周年に向けて ◆



2027年7月16日、福岡教区は創立100周年を迎えます。これを受け、教区報では、各小教区や団体が100周年に向け取り組んでいること、心がけていることなどについて具体的な活動を紹介していきます。

「創立100周年」の情報は右記QRコードからご覧になれます。



巡礼指定教会の取り組み

5. 小倉教会 「おもてなしとは」

殉教者ディエゴ加賀山隼人殉教顕彰碑（右）
に見入る島崎教会の巡礼者たち



小倉教会は、2022年7月に新聖堂が献堂され、8月15日小倉教会の守護の聖人・被昇天の聖母の祝日に神に捧げられました。2023年4月に赴任された青木悟神父様と共に、今まで以上に開かれた教会として、多くの人が神に呼び集められ、安らぎを与える場となることを願っています。

巡礼教会に指定された教会として、どのような取り組みをしたらよいか、それは言うまでもなく、信徒の誰もが、訪れた方に対して分け隔てなく平等で、思いやりのある気持ちで温かく迎え入れて、分かち合いの精神でおもてなしをすることです。

小倉教会は今年の「巡礼の旅」で、巡礼指定教会である島崎教会を6月6日に大型バス1台で訪問しました。笑顔で出迎えて頂き、ミサ後の昼食では、お茶やお菓子でもてなしてくださり、会話も大いに弾んで帰りました。島崎教会が小倉教会に巡礼訪問された日には、ここぞとばかりに大勢の信徒たちが最高の笑顔で出迎えをしました。島崎教会の方たちは、教会入口に設置されている殉教者ディエゴ加賀山隼人の殉教顕彰碑に強い関心を持たれ、小倉教会の信徒は質問攻めにありました。リーフレットを片手に一生懸命に説明をした後で、「もっと勉強しておけばよかった」と喜びの苦笑い。

花岡山（熊本県）では小笠原玄也一家の殉教祭が行われますが、玄也の妻みやは加賀山隼人の長女です。ですから小倉教会と島崎教会は殉教者を通して家族の関係と言っても過言ではありません。お互い初めて訪問したにもかかわらず、信徒同士の心が通い合い昔からの知り合いであるかのように思えました。ミサの時に声高らかに「希望の巡礼者」を歌われたアレックスandro・トウルコ神父様（島崎教会）の美声が今も耳に焼き付いています。 野口 美津江

9月14日、曇り空の下、100人以上の信者が集まり、豊津教会（主任司祭 下町重）の創立75周年を盛大に祝った。

まず、豊津教会出身で唯一



心をひとつにして記念の集合写真

「時々訪れる豊津教会はとても安心できる所」と語った。シスターの豊かな体験と温かい話に聴衆一同魅了され、感動の拍手を送った。続いて、教区長ヨゼフ・アベヤ司教主司式の創立記念ミサが執り行われた。司教は説教で、「これまで教会を維持し、守ってきた皆に感謝したい。折しも、『十字架の称賛』を祝う今日は、皆がイエスと共に多くの犠牲にし、祈りと忍耐をもって歩んできた記念の日でもある。

の修道者シスター江口智子（イエスのカリタス修道会）による講話がなされた。シスター江口は自己の召命について触れ、「神の愛を伝えるものとなり、小さい人々、弱い立場の人々に寄り添い、共に生きること喜びとしています」と話し、「時々訪れる豊津教会はとても安心できる所」と語った。シスターの豊かな体験と温かい話に聴衆一同魅了され、感動の拍手を送った。続いて、教区長ヨゼフ・アベヤ司教主司式の創立記念ミサが執り行われた。司教は説教で、「これまで教会を維持し、守ってきた皆に感謝したい。折しも、『十字架の称賛』を祝う今日は、皆がイエスと共に多くの犠牲にし、祈りと忍耐をもって歩んできた記念の日でもある。

豊津教会75周年 記念ミサ
十字架の向こうにある
救いと喜びがここにある福岡・大分教区合同
青年サマーキャンプ開催

ミサで主の祈りを唱える際、全員で手をつなぎ円を作っ

これから、十字架の向こうにある救いと喜びを希望しながら歩んでいくように」と論じた。説教後には、7人の信徒が司教より堅信の秘跡を授かった。緊張していた受堅者は秘跡を受けて安堵したのか笑顔が垣間見られた。拝領祈願後にお祝いのセレモニーがあり、拍手と喜びの音がこだ

まっていた。ミサ後には祝賀会があり、飲んだり、食ったり、歌ったりして楽しく過ごすことができた。参加者の多くが、「盛大なミサや祝賀会に来て良かった。皆が一つになっていて、嬉しかった」と笑顔で話していた。

豊津教会信徒

また、夜には神父様方がバーベキューを用意してくださり、美味しい料理をいただきながら、大分教区の青年と交換する機会もありました。2日目のミサでは、参加者が聖歌に合わせて踊りを披露し、終始明るい雰囲気の中で祈りが捧げられました。

私は北九州地区で青年活動を行っていますが、福岡地区や熊本地区の青年の数に圧倒され、自分の地区からの参加者が少ないことに悔しい思いを抱いたことも、今回のキャンプで感じた事の一つです。ただ同時に、私たちの教区には、こんなに大勢の青年がいることを嬉しく思い、「北九州地区にもまだまだ青年がいる、呼びかけを継続していきたい」と強く感じるようになりました。

今後も、北九州地区青年の活動を広げながら、福岡教区内の他地区や他の教区の青年とも親睦を深め、青年主導の取り組みを行っていければと思います。

小倉教会 北川健悟

※当日の様子を、下記QRコードからご覧になれます。

宣教養成委員会主催 講演会
黄昏時の人生に「燈火」を掲げて生きる

記のテーマでカ

ウンセラ原口

芳博先生の講演

会が紹介されま

した。まさに今

を生きている私

たちの時代だ

と思、高校時

代の友人を2人

誘いました。一

人は、原口先生

の恩師である臨

床心理学者の

霜山徳爾先生を

は、以前一緒に比叡山延暦寺

後のお知らせで、標

9月7日主日ミサ

知っていた友人と、もう一人

は、以前一緒に比叡山延暦寺

後のお知らせで、標

9月7日主日ミサ

知っていた友人と、もう一人

は、以前一緒に比叡山延暦寺

後のお知らせで、標

9月7日主日ミサ

知っていた友人と、もう一人

は、以前一緒に比叡山延暦寺

後のお知らせで、標

9月7日主日ミサ

知っていた友人と、もう一人

は、以前一緒に比叡山延暦寺

後のお知らせで、標

9月7日主日ミサ

知っていた友人と、もう一人

は、以前一緒に比叡山延暦寺

後のお知らせで、標

9月7日主日ミサ

知っていた友人と、もう一人

は、以前一緒に比叡山延暦寺

後のお知らせで、標

9月7日主日ミサ

知っていた友人と、もう一人

は、以前一緒に比叡山延暦寺

後のお知らせで、標

9月7日主日ミサ

知っていた友人と、もう一人

は、以前一緒に比叡山延暦寺

後のお知らせで、標

9月7日主日ミサ

知っていた友人と、もう一人

は、以前一緒に比叡山延暦寺

後のお知らせで、標

9月7日主日ミサ

知っていた友人と、もう一人

は、以前一緒に比叡山延暦寺

後のお知らせで、標

9月7日主日ミサ

知っていた友人と、もう一人

は、以前一緒に比叡山延暦寺

後のお知らせで、標

9月7日主日ミサ

知っていた友人と、もう一人

は、以前一緒に比叡山延暦寺

後のお知らせで、標

9月7日主日ミサ

知っていた友人と、もう一人

は、以前一緒に比叡山延暦寺

後のお知らせで、標

9月7日主日ミサ

知っていた友人と、もう一人

は、以前一緒に比叡山延暦寺

後のお知らせで、標

9月7日主日ミサ

知っていた友人と、もう一人

は、以前一緒に比叡山延暦寺

後のお知らせで、標

9月7日主日ミサ

知っていた友人と、もう一人

は、以前一緒に比叡山延暦寺

後のお知らせで、標

9月7日主日ミサ

知っていた友人と、もう一人

は、以前一緒に比叡山延暦寺

後のお知らせで、標

9月7日主日ミサ

知っていた友人と、もう一人

は、以前一緒に比叡山延暦寺

後のお知らせで、標

9月7日主日ミサ

知っていた友人と、もう一人

は、以前一緒に比叡山延暦寺

後のお知らせで、標

9月7日主日ミサ

知っていた友人と、もう一人

は、以前一緒に比叡山延暦寺

後のお知らせで、標

9月7日主日ミサ

知っていた友人と、もう一人

は、以前一緒に比叡山延暦寺

後のお知らせで、標

9月7日主日ミサ

知っていた友人と、もう一人

は、以前一緒に比叡山延暦寺

後のお知らせで、標

9月7日主日ミサ

知っていた友人と、もう一人

は、以前一緒に比叡山延暦寺

後のお知らせで、標

9月7日主日ミサ

知っていた友人と、もう一人

は、以前一緒に比叡山延暦寺

後のお知らせで、標

9月7日主日ミサ

知っていた友人と、もう一人

は、以前一緒に比叡山延暦寺

後のお知らせで、標

9月7日主日ミサ

知っていた友人と、もう一人

は、以前一緒に比叡山延暦寺

後のお知らせで、標

9月7日主日ミサ

知っていた友人と、もう一人

は、以前一緒に比叡山延暦寺

後のお知らせで、標

9月7日主日ミサ

知っていた友人と、もう一人

は、以前一緒に比叡山延暦寺

後のお知らせで、標

9月7日主日ミサ

知っていた友人と、もう一人

は、以前一緒に比叡山延暦寺

後のお知らせで、標

9月7日主日ミサ

知っていた友人と、もう一人

は、以前一緒に比叡山延暦寺

後のお知らせで、標

9月7日主日ミサ

知っていた友人と、もう一人

は、以前一緒に比叡山延暦寺

後のお知らせで、標

9月7日主日ミサ

知っていた友人と、もう一人

は、以前一緒に比叡山延暦寺

後のお知らせで、標

9月7日主日ミサ

知っていた友人と、もう一人

は、以前一緒に比叡山延暦寺

後のお知らせで、標

9月7日主日ミサ

知っていた友人と、もう一人

は、以前一緒に比叡山延暦寺

後のお知らせで、標

9月7日主日ミサ

知っていた友人と、もう一人

は、以前一緒に比叡山延暦寺

後のお知らせで、標

9月7日主日ミサ

知っていた友人と、もう一人

は、以前一緒に比叡山延暦寺

後のお知らせで、標

9月7日主日ミサ

知っていた友人と、もう一人

は、以前一緒に比叡山延暦寺

後のお知らせで、標

9月7日主日ミサ

知っていた友人と、もう一人

は、以前一緒に比叡山延暦寺

後のお知らせで、標

9月7日主日ミサ

知っていた友人と、もう一人

は、以前一緒に比叡山延暦寺

後のお知らせで、標

9月7日主日ミサ

知っていた友人と、もう一人

は、以前一緒に比叡山延暦寺

後のお知らせで、標

9月7日主日ミサ

知っていた友人と、もう一人

は、以前一緒に比叡山延暦寺

後のお知らせで、標

9月7日主日ミサ

知っていた友人と、もう一人

は、以前一緒に比叡山延暦寺

後のお知らせで、標

9月7日主日ミサ

知っていた友人と、もう一人

は、以前一緒に比叡山延暦寺

後のお知らせで、標

9月7日主日ミサ

知っていた友人と、もう一人

は、以前一緒に比叡山延暦寺

後のお知らせで、標

9月7日主日ミサ

知っていた友人と、もう一人

は、以前一緒に比叡山延暦寺

後のお知らせで、標

9月7日主日ミサ

知っていた友人と、もう一人

は、以前一緒に比叡山延暦寺

後のお知らせで、標

9月7日主日ミサ

知っていた友人と、もう一人

は、以前一緒に比叡山延暦寺

後のお知らせで、標

9月7日主日ミサ

知っていた友人と、もう一人

は、以前一緒に比叡山延暦寺

後のお知らせで、標

ラウダート・シ 10 周年記念 シンポジウム エコロジカルな霊性—和解を生きる—



登壇者（左からフランコ神父・深井氏・岩根氏）

10月4日、福岡サン・スルピス旧神学院で「ラウダート・シ」10周年記念シンポジウムとミサが行われた。テーマは「エコロジカルな霊性—和解を生きる—」。秋の気配を感じる旧神学院に90人の方が参加された。オンラインでの50人を含めて140人もの参加は予想を大きく上回るもので、驚き感動した。

シンポジウムでは3人のパネリストがそれぞれの立場で意見を述べた。福岡海星女子学院附属小学校の深井隆弘校長、菊池教会の信徒 岩根のぞみ（私の娘）、真命山諸宗教対話・交流センター創設者のフランコ・ソットコルノラ神父（聖ザベリオ宣教会）。

深井校長は、校庭にある森での活動を通して環境と共生する大切さを教えていて、その体験の中で神様と出会う子どももいたと話した。

岩根のぞみは、益々激甚化する自然災害を見聞きする中で、温暖化防止など地球環境保全への思いを深め、身の回りの些細なことから始めることを提案した。

ソットコルノラ神父はアッシジの聖フランシスコの「讃歌」を引き合いに出しながら、この大自然を神様からの贈り物として大切に守るよう、私たちは神様から呼びかけられていると語った。

シンポジウムの終了後、私宛に「中断していたコンポストの活用を再開した」「シンポジウムを聞けなかった友人を誘って再度 You Tube を見た」などのメールが届いた。パネリストのプレゼンテーション（説明）にあった「1人の100歩より100人の1歩」が既にスタートしていると感じた。

娘がこのシンポジウムに参加したおかげで、私は「いのちを守るために私たちにできること」を真剣に考える機会を得た。 光丘教会 葉真寺真理枝

※当日の様子は、左記 QR コードからご覧になれます。



9月15日、筑後地区親睦レクリエーション大会が、大刀洗勤労者体育センターにて開催された。当日は筑後地区六つの教会より、子どもから高齢者まで幅広い世代が集まり、総勢150人の参加となった。会場は朝から大きな期待と笑顔に包まれ、交流を目的としたにぎやかな一日が始まった。

開会式では、久留米教会の宮崎保司神父（神言修道会）の「4種目が導入され、どの世代も楽しめる内容となった。力いっぱい声援や笑い声が絶えず響き、会場は終始熱気にあふれていた。昼食の時間には、チームごとに車座になり、近況を語り合いながら食事とともにし、教会を超えた交流をさらに深める貴重なひとときとなった。

また今年は、久留米教会中島信治実行委員長の強い思いにより「参加者全員に福引



大人も子どももゲームに夢中！
声援と笑顔が飛び交う熱気あふれる会場

から「世代を超えて親睦を深める日としましょう」との挨拶をいただき、温かな雰囲気のもとでプログラムがスタート。じゃんけんを交えながらの自己紹介を通じてチーム分けが行われ、初めて会う人たちとも自然に打ち解ける姿が見られた。競技では、恒例となった〇×クイズや玉入れ、スリッパ飛ばしに加え、今年はペタンクやボーリングなど新

スポーツの秋！レクリエーション大会開催

筑後地区宣教司牧評議会主催



230人が参加した青年のミサ

9月27日、玉名手取、武蔵ヶ丘、八代から出発する四つのコースのバスに分乗して11の小教区から190人と天草三教会から約40人、計230人が大江教会に集まった。ゆるしの秘跡の後、アベイヤ司教と9人の司祭の共同司式で「聖年のミサ」が始まった。アベイヤ司教は説教で「希望の巡礼者としてここに集まった一人ひとりの信者、一つひとつの共同体にとって聖年が恵みの年となること

熊本地区宣教司牧評議会主催 天草巡礼旅行

を！」が取り入れられ、当選番号が呼ばれるたびに大きな歓声と拍手がわき起こり、最後まで会場は盛り上がった。閉会にあたっては筑後地区長の浦川務神父（今村・本郷教会）から、暑さの中だけがや体調不良もなく無事に大会を終えられたことへの感謝の言葉を述べた。

葉があり、全員で「アヴェ・マリアの祈り」を唱えて一日を締めくくった。本大会を通じて、世代や地区の枠を超えて心一つにし喜びを分かち合うことができ、参加者にとって忘れられない思い出となった。 今村教会 佐々木義雄

9月28日に新田原、行橋、豊津、水巻教会の子どもたち20人、青年や保護者が約60人、全国のイエスのカリタス修道女会のシスター25人による「信仰と召命を楽しく理解



心に響く巧みな遊びで、楽しく召命を理解した催し

ということができるのではないかと。教会は一つではない、小教区が連携すれば、これからの開かれた教会への扉が切りひらけることを実感した。 北九州地区 子どもたちに召命を求める集まり

北九州地区 子どもたちに召命を求める集まり

と祈り、アベイヤ司教が「巡礼の旅路を共に歩み、世界で起きる出来事の中に、共にいられる神のしるしを知ることができるように」と結んだ。『聖年の祈り』を皆で唱え、派遣の祝福をいただき、感動の内に帰路に就いた。 熊本地区宣教司牧評議会 広報 小野豊和（手取教会）

第63回 日本カトリック看護協会 全国大会



「いのち」を見つめる参加者たち

9月15日、第63回日本カトリック看護協会全国大会が聖マリア研究センター 井手一郎ホールにて盛大に開催され、全国より102人が参加した。テーマは「いのちの奉仕者」～カトリック看護師としてどういのちに向き合うか～。

午前の部では開会式と大会ミサが行われ、ヨゼフ・アベイヤ司教（福岡教区）が主司式を務められた。午後には森山信三司教（大分教区）による基調講演「いのちとは何か？～カトリック教会の立場から～」が行われ、続いてパネルディスカッションでは、聖マリア病院看護師の正岡佳貴氏、金子仁美氏、本会福岡支部会員の村上順子氏の3人の看護師より発表が行われた。

その後、聖マリア学院大学教授でありチャプレンでもある、CICIAMS 教会補佐のケン・G・スレイマン神父を指定討論者として迎え、緩和ケア病棟におけるカトリック看護師の役割、子どもにとっての最善を支える家族への支援、精神科看護での愛の関わりや高齢者のいのちに向き合う現場での体験など、多くの経験について分かち合いが行われた。大会のテーマである「いのちの奉仕者」として、どのように「いのち」と向き合うべきかを、深く見つめ直す機会となり、学び合えたこの時間は、参加者一人ひとりにとって大変貴重なものとなった。

最後に次回開催担当の大阪高松支部への引き継ぎが行われ、盛会のうちに閉会した。 日本カトリック看護協会福岡支部 副支部長 東島美由紀

☆回勅 主はわたしたちを愛された

教皇フランシスコ（著）

心とは何であるかを考察することから始め、イエスのみ心への信心について、福音書の記述と教導職の教えを再確認し、数多くの聖人の信仰を具体的に示して、この信心がもつ共同体的・社会的・宣教的側面を深める必要性を説く。前教皇フランシスコが遺した最後の回勅。カトリック中央協議会発行 税込価格1210円

BOOK 読み専科

ド・ロさま

Nagasaki Spaghetti

長崎スパゲッティ Since 1883

株式会社サンフリード ド・ロさま麺工場

長崎市西出津町2528-1

TEL(0959)23-0610

FAX(0959)23-0611

右記URLからご注文できます

URL: http://www.st-mary-med.or.jp/

社会医療法人 雪の聖母会

聖マリア病院

〒830-8543 福岡県久留米市津福本町422

TEL.0942(35)3322 FAX.0942(34)3115

聖マリアヘルスケアセンター

〒830-0047 福岡県久留米市津福本町448番5

TEL.0942(35)5522 FAX.0942(34)3306

信仰や理念を共有できる医師、看護師の皆さん 一緒に働いてみませんか

URL: http://www.st-mary-med.or.jp/

年間目標

互いに支え合う
交わりの教会となる

第76回 福岡市民クリスマス

日 時：12月8日(月)
開 場 18時 開 演 18時30分 終 演 20時40分
場 所：福岡市民ホール・中ホール
※入場無料



<内 容>

- ・クリスマスメッセージ
鈴木 結生氏 (作家・第
172回芥川賞受賞、西
南学院大学・大学院生)
- ・弦楽四重奏によるメド
レー「プレギアーモ」
- ・福岡市民クリ
スマス聖歌隊
合唱

※詳細は右記QRコードからご確認を。

熊本地震復興支援 西原村復興寄姫伝説米
購入支援のお願い

加藤ご夫妻とご長女 (左)



日頃から西原
村の地震復興に
は、温かいご支
援をいただき本
当にありがとう
ございます。今
年もおかげ様
で、高齢農家も
猛暑に耐えなが

ら米作りに励むことができました。

ですがご承知の通り、全国的な米不足に加え、肥料を
はじめとした生産資材の異常な高騰で価格改定をせざる
を得ない現状です。2年続けた値上げは誠に不本意で
大変忍びないのですが、何卒事情をご理解の上、例年通
りのご購入支援を賜れましたら幸いです。

皆様のご好意には、お米の味で必ずお応えできると確
信いたしております。 NPO法人・阿蘇 代表：加藤 義明

*お米の注文は各小教区にある注文書でお申し込み
下さい。また右記QRコードからも注文書がダウン
ロード出来ますのでご利用ください。
※詳細は福岡教区ホームページをご覧ください。

教区HP <http://fukuoka.catholic.jp/help/>福岡教区社会福音化委員会「正義と平和・人権」部門
今私たちに問われていること
フランシスコ前教皇回勅「兄弟のみなさん」を読む

「兄弟のみなさん」(兄弟愛と社会的友愛)をわかりや
すい絵で伝えてくださいます。

【講 師】梶山義夫神父 (イエズス会司祭)
イエズス会社会司牧センター所長

【日 時】11月29日(土) 13時～16時

【場 所】カテドラル大名町教会 1階講堂

【問合せ先】☎ 090・6775・4268 (青木)

090・9583・2806 (高瀬)

コンセール・エクラン福岡 パイプオルガン演奏会
「J.S. バッハと先人たちの音楽」

【日 時】11月30日(日) 開場 13:30 / 開演 14:00
【場 所】雪の聖母聖堂 (聖マリア病院内)

福岡県久留米市津福本町 422

【問合せ先】☎ 0942・35・3322 (代表)

※「チャプレン室へ」とお伝えください。

【入場料】大人 (中学生以上) 1,500 円

小学生 500 円 / 未就学児無料



— 召命を共に祈る会 —

福岡地区 11月18日(火) 13時30分～ 大名町教会
ミサと分かち合い

【問合せ先】☎ 090・6422・2257 (山口)

北九州地区 11月8日(土) 14時～ 小倉教会

ミサと茶話会

【問合せ先】☎ 0949・24・9905 (藤井)

熊本地区 11月20日(木) 9時30分～ 健軍教会

ミサと分かち合い

【問合せ先】☎ 096・369・8896 (松上)

— 各種団体の定例会 —

詳細につきましては、福岡教区ホーム
ページ「教区報11月号」、または
右記 QR コードからご確認ください。



福岡教区広報室アドレス

<https://fukuoka.catholic.jp>

E-mail: cdf-kouhou@nifty.com



案 内 板

会合と催し

11月のこよみ

福岡教区創立 100 周年に向けて
かつどう・できごと掲示板

「シノドス的」な教会の歩みを推し進めましょう！

2027 年 7 月 16 日まで

あと 20 ヶ月

スタンプを押した
島崎教会のページ

小教区や地区主催で巡礼に行ってきたとの声
が聞こえています。皆さん、スタンプノートに
スタンプの数が増えていますでしょうか？

— 8 つの巡礼指定教会 —

その 7 幼きイエスの聖テレジア

カトリック島崎教会

毎年 4 月に福者小笠原玄也一家の殉教祭

「花岡山殉教祭」でミサが捧げられます。

真命山諸宗教対話センター - 祈りの集い -

年間テーマ：希望の巡礼者

日 時：11月13日(木)

内 容：「希望」と神の国 神の国の到来を待ち望む

次 回：12月11日(木)

内 容：「希望」と喜び 神の訪れはもたらす贈り物

※2025年から、指導はチームで行われます。

問合わせ先：真命山諸宗教対話センター

☎ 0968・85・3100 FAX 0968・85・3186

熊本県玉名郡和水町蛸浦1391-7

E-mail shinmeizan@gmail.com

☆個人またはグループでの黙想会、研修会も歓迎いたします(要予約)

集いの詳細は、
各問合せ先に
お尋ねください。

- 美野島司牧センター
ホームレスの方に温かい食
事と衣類 毎週火曜日 10 時
第 2・第 4 金曜日
調理 14 時 夜回り 21 時
路上からアパートに入居し
た方を訪問 第 3 土曜日 14 時
【問合せ先】☎ 092・4331・
1419 ジョンソン・デソ
- ホームレスの方の温かい食
事と衣類 毎週火曜日 10 時
第 2・第 4 金曜日
調理 14 時 夜回り 21 時
路上からアパートに入居し
た方を訪問 第 3 土曜日 14 時
【問合せ先】☎ 092・753・
6765 大濠カトリック会館
- ミリアサロン大濠
第 1・第 3 水曜日 10 時
【問合せ先】☎ 092・753・
6765 角田
- みことばのお弁当
第 4 木曜日 10 時
【問合せ先】☎ 092・753・
6765 大濠カトリック会館
- 宣教養成委員会「黙想と
祈りの集い」テゼの歌と共に
【日時】11月20日(木) 19時半

- ザ神父
■大濠カトリック会館・宣
教
養成センター
○ミリアサロン大濠
第 1・第 3 水曜日 10 時
【問合せ先】☎ 092・753・
6765 角田
- みことばのお弁当
第 4 木曜日 10 時
【問合せ先】☎ 092・753・
6765 大濠カトリック会館
- 宣教養成委員会「黙想と
祈りの集い」テゼの歌と共に
【日時】11月20日(木) 19時半

- 約 1 時間 (場所) 大名町教
会小聖堂 (問合せ先) ☎ 08
0・3227・8295 (杣)
- 宣教養成委員会「沈黙の
うちに主を見つめる」
今年の待降節、今年の四旬
節、そして 3 回目として 9 月
の毎週土曜日朝 9 時～12 時
で、1 人 30 分間の祈りのリ
レーを開催しました。顕示さ
れたご聖体を礼拝し、多くの
方々と共に主の声を聴き、心
の奥底で語り合う喜びの時
を過ごしていただきました。

- 私たちは普段とても多くの
言葉を発してありますが、主
のうちに沈黙することの大切
さを今一度味わっていただき
たいとの想いで企画しており
ます。これからも定期的に開
催する予定にしておりますの
で、まずは、30 分間のお時間
を大濠会館で過ごしてみませ
んか。今回 12 月、待降節毎週
土曜日 9 時～12 時に皆様のお
越しをお待ちしております。
- 大名町教会 江藤祐子
【日時】12月6日(土) 13時(土)

- 私たちが普段とても多くの
言葉を発してありますが、主
のうちに沈黙することの大切
さを今一度味わっていただき
たいとの想いで企画しており
ます。これからも定期的に開
催する予定にしておりますの
で、まずは、30 分間のお時間
を大濠会館で過ごしてみませ
んか。今回 12 月、待降節毎週
土曜日 9 時～12 時に皆様のお
越しをお待ちしております。
- 大名町教会 江藤祐子
【日時】12月6日(土) 13時(土)

編集後記

気候変動のため、夏の風物
詩でもある蚊の活動が、今ご
る最盛期を迎えているとか。
すべてのいのちを守るた
め、回勅「ラウダート・シ」
は今年で公布 10 周年。「蚊に
も生きる権利があるんですよ
(笑)」とはアベイヤ司教さま。
緑豊かな司教館の敷地で、
やぶ蚊に刺されないよう事務
所の部屋まで猛ダッシュ！息
切れで立ち止まっても手足は
大きく動かして。やとと涼し
くなったのに汗だくで小さ
ないのちと共存中です。(W)

20 日(土) 9 時～12 時(場所)
大濠カトリック会館 (参加申
込) marial
208yuko@g
mail.com

HÀNH TRÌNH SỨ VỤ MỚI
Pham Hong Phuong linh mục (Viet Nam)

Chào tất cả mọi người,

Con là linh mục Phêrô Phạm Hồng Phương, thuộc Tu Hội Truyền Giáo Thánh Vinh Sơn tỉnh dòng Việt Nam, đang thi hành sứ vụ linh mục tại Nhật Bản. Hành trình của con đến với nước Nhật Bản là một chặng đường đầy ơn lành, sự yêu thương và nâng đỡ từ Thiên Chúa qua những người cụ thể. Con đặt chân đến Nhật vào tháng Hai, những ngày cuối mùa đông, với nhiều lo lắng và bối rối của một người bước vào môi trường mới, khác biệt về văn hóa, ngôn ngữ và cách sống.

日本語訳は
右記から→

Những ngày đầu đến Nhật, con đang là phó tế, trong thời gian học hỏi, chuẩn bị lãnh nhận thánh chức linh mục. Thế nhưng giữa bao điều mới mẻ ấy, con đã cảm nhận một cách sâu xa tấm lòng rộng mở của Đức Cha và quý cha, đặc biệt quý cha Dòng Xuân Bích tại chủng viện Fukuoka, nơi con đang sinh sống và học tiếng Nhật, và cộng đoàn Công Giáo người Việt Nam cũng như người Nhật. Mọi người đón tiếp con không chỉ bằng lời chào, mà còn bằng những hành động cụ thể: chỉ dẫn, hỗ trợ, khích lệ và tạo mọi điều kiện để con hòa nhập với đời sống tại Nhật.

Đến tháng Sáu, con trở về Việt Nam để chuẩn bị lãnh nhận sứ vụ linh mục, một ân ban trọng đại của Thiên Chúa dành cho con. Nhờ ơn Chúa và lời cầu nguyện của mọi người, con chính thức trở thành linh mục của Tu Hội Truyền Giáo Vinh Sơn Tỉnh Dòng Việt Nam vào ngày 20 tháng 8, cùng với 20 anh em cùng lớp với sự đặt tay truyền chức của Đức Cha Giáo Phận Đà Lạt. Sau đó, ngày 12 tháng Chín, con trở lại Nhật Bản để tiếp tục đời sống và sứ vụ của mình tại đây.

Với sứ vụ mới, một linh mục trong xã hội khác biệt. Con tiếp tục học tiếng Nhật và tham gia công việc mục vụ, với mọi người, nhất là với những người Việt Nam đang sinh sống tại Nhật. Ngôn ngữ và văn hóa Nhật Bản đôi khi khiến con gặp khó khăn, nhưng nhờ tình thương và sự kiên nhẫn của mọi người, con từng bước thích nghi và trưởng thành hơn trong đời sống sứ vụ.

Anh chị em, tín hữu Nhật bản và người di dân Việt nam luôn dành cho con sự quý mến, kính trọng và nâng đỡ. Mọi người không chỉ giúp con hòa nhập cuộc sống hằng ngày, từ di chuyển, học ngôn ngữ, mà còn đồng hành trong các công việc mục vụ, chia sẻ niềm tin, hy vọng, cũng như những thao thức trong đời sống thiêng liêng. Con cảm nghiệm được tình huynh đệ và sự hiệp thông sâu sắc của Giáo Hội hoàn vũ.

Ước chi nhờ ơn Chúa giúp, con có thể chu toàn sứ mạng của một linh mục, là khí cụ của tình yêu và lòng thương xót Chúa, giữa lòng thế giới hôm nay. Xin mọi người tiếp tục cầu nguyện cho con.

大名町教会での初ミサで献香を行う
ベトロ・フン神父

福岡教区セクハラ対応窓口

セクハラを受けたら、見かけたら、ご相談
ください。ひとりで悩まず、早めに相談

セクシュアル・ハラスメント相談窓口

電話 080-2694-4182

受付時間 月～金 (祝日を除く)

10:00～12:00 13:00～16:00